

11月25日 赤坂山

林 尚子

山名	赤坂山	山行名	個人山行
ルート	マキノ高原～寒風～栗柄越～赤坂山～ブナの木平～マキノ高原		
山行日	2022年11月25日(金)	天候	晴れ
参加者	リーダー：木田 男性：佐々木	サブリーダー：林 女性：秋山 伊藤(多) 北條	合計：6名

ルート概略図	コースタイム					
	地名		時：分			
栗柄越 → 赤坂山 ↑ ↓ 寒風 栗柄越 ↑ ↓ マキノ高原 ← 武奈の木平 (スタート) (ゴール)	マキノ高原P	着	8:40	赤坂山	着	12:45
		発	8:55		発	13:05
	寒風登山口	着	9:00	東屋	着	13:50
		発	9:00		着	14:10
	寒風	着	11:00	マキノ高原P	着	15:10
		発	11:30		発	15:15
	栗柄峠	着	12:30	マキノピックランドP	着	15:25
		発	12:35		発	16:10

山行報告

登山前後にメタセコイヤ並木を堪能でき、高島トレイルの一部である寒風～赤坂山への周回コース。平日の早朝、既に並木周辺に駐車された車が多数。人気の高さがうかがえる。巨大メタセコイヤを車窓から楽しみ、登山者用駐車場へ。準備体操して出発。グランドゴルフ場横から寒風登山口はすぐ。臍が伸びきる芝の傾斜を登ること20分。11月下旬と思えぬ暖かさから半袖一枚のKさん。西山林道出合をすぎるとつづら折りの道。ベンチのある展望台(550m)で一服。落葉した木々を通して琵琶湖の水面を垣間見ながら明るい道を前進。透き通る青い空と落葉樹の絵画的な世界。足元にイワカガミの鏡面が映える。冠雪白山を横目に登り続けると両脇でススキが出迎えてくれ、寒風に辿り着く。湖北、伊吹山、鈴鹿山脈などを見渡せる。眺望が良いので、ここで昼食をとる。30分の休憩後、栗柄越へ向かう。苔と濃灰色の岩が露出する緩やかな稜線へ下ると左に日本海が思いのほか近く見え驚く。ゴッホの作品を思わせるようなうねった樹木の群生が目を引く。短い急なアップダウンをいくつか超え栗柄越に。福井県美浜町まで13kmとの標識。江戸時代より馬頭観音が行き交う人々を静かに見守る。山頂は目前だが、浸食され、鉄杭が飛び出した箇所もあり、慎重に足を運ぶ。ようやく着いた赤坂山山頂からは360度の景色。白山と伊吹山のほぼ中間に白い山がかすかに見える。のちに乗鞍岳だとKさんに教わる。下りは栗柄越まで来た道に戻り、段差が大きな階段を下り続け、武奈の木平の東屋でしばし休憩。そこから先へは紅葉の残りを楽しみ歩く。いよいよ階段に嫌気がさしたところで、赤坂山登山口に至る。麓のキャンプ場には最新型の多角形大型テントが張られ始めている。さらさ温泉に寄らず、メタセコイヤ並木鑑賞のため、マキノピックランド周辺の無料駐車場へ移動。大変な賑わいである。季節折々に美しく衣替えするメタセコイヤ並木と赤坂山。何度も訪れたい場所。後日、Iさんから教えていただきBS番組を見た。紹介された中央分水嶺の琵琶湖と日本海へ注ぐ2つの水源にも足を運んでみたい。長時間の運転のKさんに感謝。初SLとして未熟で至らない事が多すぎましたが、先輩方に温かく見守っていただき感謝しております。ありがとうございました。

YAMAP データタイム 5:53 距離 9.3km 上り 869m 下り 821m (ヒヤリハット なし)



素晴らしいYMCA！毎日が最高のスタートだ！



赤坂山山頂



絶景の稜線歩きと黄金色のメタセコイア

佐々木康治

今日は door to door の送迎とは痛み入る。木田ハーレム号は未明に京田辺出発、一路朝日に映える琵琶湖の西岸を北上。高島のメタセコイア並木は延長 2.4km、約 500 本、黄金色に染まり眩しいばかり。見上げるばかりの落葉喬木群は 41 年前の 1981 年に植樹されたものとは樹木の成長の速さには驚くばかり。

広々としたマキノスキー場から登攀開始、揃ってスラっとした登山体型の猛者ガール達の足取りは軽く速く、果たしてついて行けるのかとの不安いっぱいの後期高齢者はダブルストックで必死で追いかける。紅葉、絶景に励まされ 11:00 に寒風(853.8m)到達、青天のもと、琵琶湖、伊吹、金糞、彼方には白山を眺めながらのランチは格別。赤坂(823.8m)までの尾根歩きは「今まで経験したことのない奇跡のトレイル」と企画した木田さんは鼻高々、裸のブナ林、陽光を受けて眩しいイワカガミ、イワウチワ、白髪頭のス

スキ群、若狭湾も遠望、これ以上は望めない山行、帰途の交通渋滞は予想以上、ただただ長時間ハンドルを握ってくれた木田さんには頭が下がるばかりでした。

北條 都

今回、楽しみにしていたマキノ高原のメタセコイヤ、早朝と夕日に映える美しいメタセコイヤ並木の両方を堪能することが出来た。寒風山と赤坂山は初めて登る山だった。最初の登りが結構きつかったが、ススキの穂が揺れ動く草原稜線をルンルン気分歩いて行く。落葉樹のブナ林がとても美しく、それに視界を良くしてくれていて非常に気持ち良かった。赤坂山から見る眺望は素晴らしく、眼下に琵琶湖が望め伊吹山、遠くに雪を被った白山まで見ることができ、振り返ると日本海が見渡せた。お天気が良く、暑くも寒くもなく絶好の登山日和で景色も良く一日楽しむことができた。赤坂山から下る途中に猫の顔のような鉄塔が並んでいて、猫好きの私を喜ばせてくれた。赤坂山付近は、イワカガミの群生になっていて、赤みを帯びた葉が光を浴びて鏡のようにきらきらと輝きとても綺麗だった。なぜか季節外れの花が一輪だけ咲いていた。可憐な花でアルプスなんかでも見られる。

イワカガミやイワウチワが、5月ごろに満開を迎えとても美しいらしいので是非その頃に再度行ってみたいと思う。

木田

晩秋の穏やかな光を受けて輝く琵琶湖、鮮やかな青空をバックにしたブナ林を縫う高島トレイル、伊吹山はもちろんのこと鈴鹿山脈全景、冠雪の白山や遠く乗鞍岳もその姿を見せてくれた。下山後は、期待に違わず夕日に輝く黄金色のメタセコイヤ並木。満ち足りた山行に加えて今後の活躍に期待できるSLの発見は、今回最大の成果だった。帰りの大渋滞の高速道では、SLからの「爆笑、急ブレーキ不可！」にも関わらず爆笑の連続となった。

次は、雪景色のメタセコイヤ並木と雪山を狙っています。